

# 経営比較分析表（令和3年度決算）

秋田県 八峰町

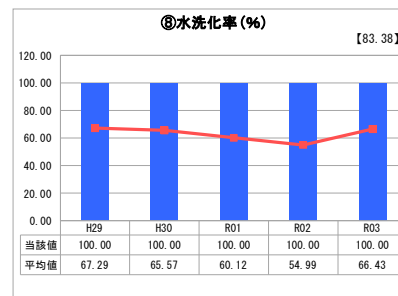
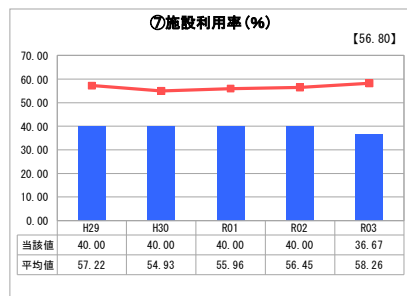
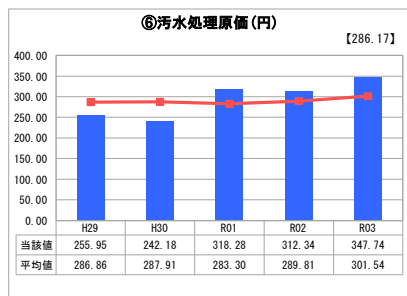
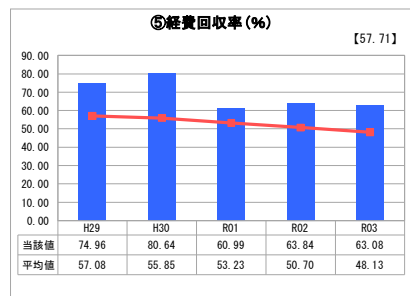
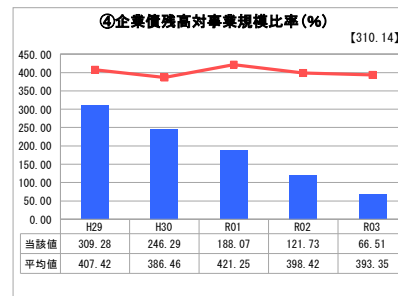
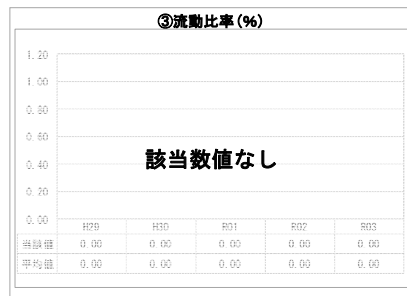
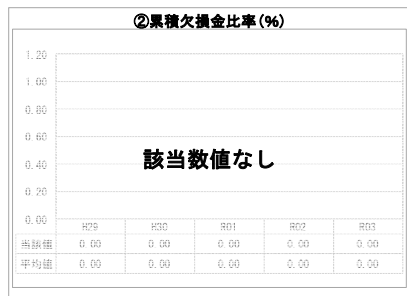
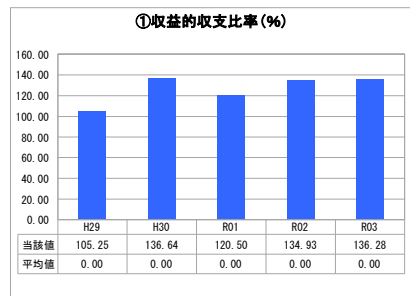
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	特定地域生活排水処理	K3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	0.62	100.00	3,140

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
6,693	234.14	28.59
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
41	231.14	0.18

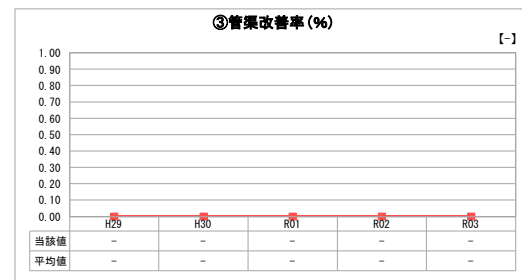
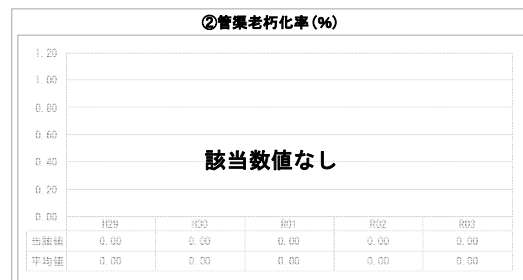
**グラフ凡例**

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和3年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

- 収益的収支比率は、平成24年度までは100%を超えていたが平成25年度以降約80%を下回っていた。平成28年度からは収支比率が再び改善している。企業債の元利償還のピークを過ぎたことによるが、今後も適正な使用料を設定することにより収入を確保し、一層の数値の改善を図ることが必要である。
- 企業債残高対事業規模比率は、平成23年度の事業終了以後、毎年改善している。今後も、適正な使用料を設定することにより収入の確保し、一層の数値の改善を図ることが必要である。
- 経費回収率は、平成27年度から4年連続で回収率が上がっていたが、耐用年数を経過したブロワー交換等を行って、前年度と比較してほぼ同水準の率となった。今後、企業債元利償還金は減少する見込みである一方で設置から10年以上経過し、設備の修繕等も発生してきていることから、今後も、適正な使用料を設定することにより収入を確保し、一層の数値の改善を図ることが必要である。
- 汚水処理原価は、令和元年度から3年間、類似団体平均を上回る結果となったが、3. で示したブロワー交換等を行ったことによる。今後も、維持管理費の節減を行い、原価上昇の抑制に努めていく。

### 2. 老朽化の状況について

浄化槽の設置件数は24基である。事業着手は平成22年度であり、経過年数は11年で一般的な浄化槽本体の耐用年数が30年であることから、浄化槽本体の老朽化対策は現在不要であるが、ブロワー等機械設備の修繕は必要になってきているものもあるため、令和元年度から計画的な更新修繕を図っている。費用の平準化に引き続き取り組みが、財源の確保が課題となる。

## 全体総括

事業規模は非常に小さいが、概ね安定的な経営を行っている。今後、起債の償還が終了することとなるが、ブロワー等設備修繕を引き続き計画していく必要があるため、使用料の見直しにより収入を確保し、持続可能な事業経営をめざしていく。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。